

環境への取り組み

私たちダイヤモンドシティが環境対応を考える上では、まず第一に自らの事業活動において環境負荷を低減し、資源効率を高め、持続可能な経営を確立させる必要があります。また同時に、私たちが関わる幅広いステークホルダーの皆様に対しても、ビジネスを通じて社会全体の環境負荷の低減、資源効率を向上させる努力を求めます。私たちはこうした企業努力の結果として、持続可能な社会の構築へ貢献したいと考えています。これが、SCの開発・運営・管理というビジネスを営むダイヤモンドシティがめざす環境経営です。

環境方針 環境目的・目標(2004年度)

ダイヤモンドシティでは、明確な環境方針のもとに具体的な目的および目標を設定し、日々のビジネス活動に組み込んだ展開を行っています。

環境方針

(株)ダイヤモンドシティは、ショッピングセンターの開発・運営・管理を通じて、地域社会の発展に貢献する商業専門ディベロッパーとして、地球環境に配慮し、事業活動のあらゆる面において、地球環境の保全と改善に努め以下の内容に全社をあげて取り組みます。

1. 事業活動を通じて、環境負荷を最小限にし環境の保全と汚染の予防に取り組みます。

- ① 省エネ・省資源の推進。
- ② 廃棄物の削減と再資源化。
- ③ 水質汚染・大気汚染の低減。
- ④ グリーン購入の積極的推進。
- ⑤ 環境に配慮したショッピングセンターの開発。
- ⑥ クリーン活動への取り組み。

2. 事業活動を通じた環境保全活動に、目的・目標を設定し、定期的に見直し、継続的改善に努めます。

3. 環境保全に関連する法規制の要求事項を遵守します。

4. この方針を実行し、維持するとともに、全従業員に周知徹底致します。

5. この方針を広く情報公開致します。

2004年6月1日制定
株式会社ダイヤモンドシティ
代表取締役社長 鯛 洋三

2004年度 環境目的・目標

① 省エネ・省資源の推進

- (1) 電気・ガス・水道の使用量低減

本社・事務所およびショッピングセンターの共用部

電気:全社平均1%削減

ガス:全社平均1%削減

水道:全社平均1%削減

(全SC年間計画数値に対して)

② 廃棄物の削減と再資源化

- (1) 廃棄物の適性分別管理
- (2) 廃棄物の分別によるリサイクル回収の推進

③ 水質汚染・大気汚染の低減

- (1) テナント・グリストラップによる水質汚染の防止
- (2) 清掃(ワックス)による水質汚染の低減
- (3) 殺虫剤による水質汚染の低減
- (4) アイドリングストップ運動の推進による大気汚染の低減(CO₂排出規制)

④ グリーン購入の積極的推進

- (1) グリーン購入特定調達物品の使用

⑤ 環境に配慮したショッピングセンターの開発

- (1) 省エネ機器の導入
- (2) ハートビル法・ユニバーサルデザインの導入
- (3) 植樹の推進

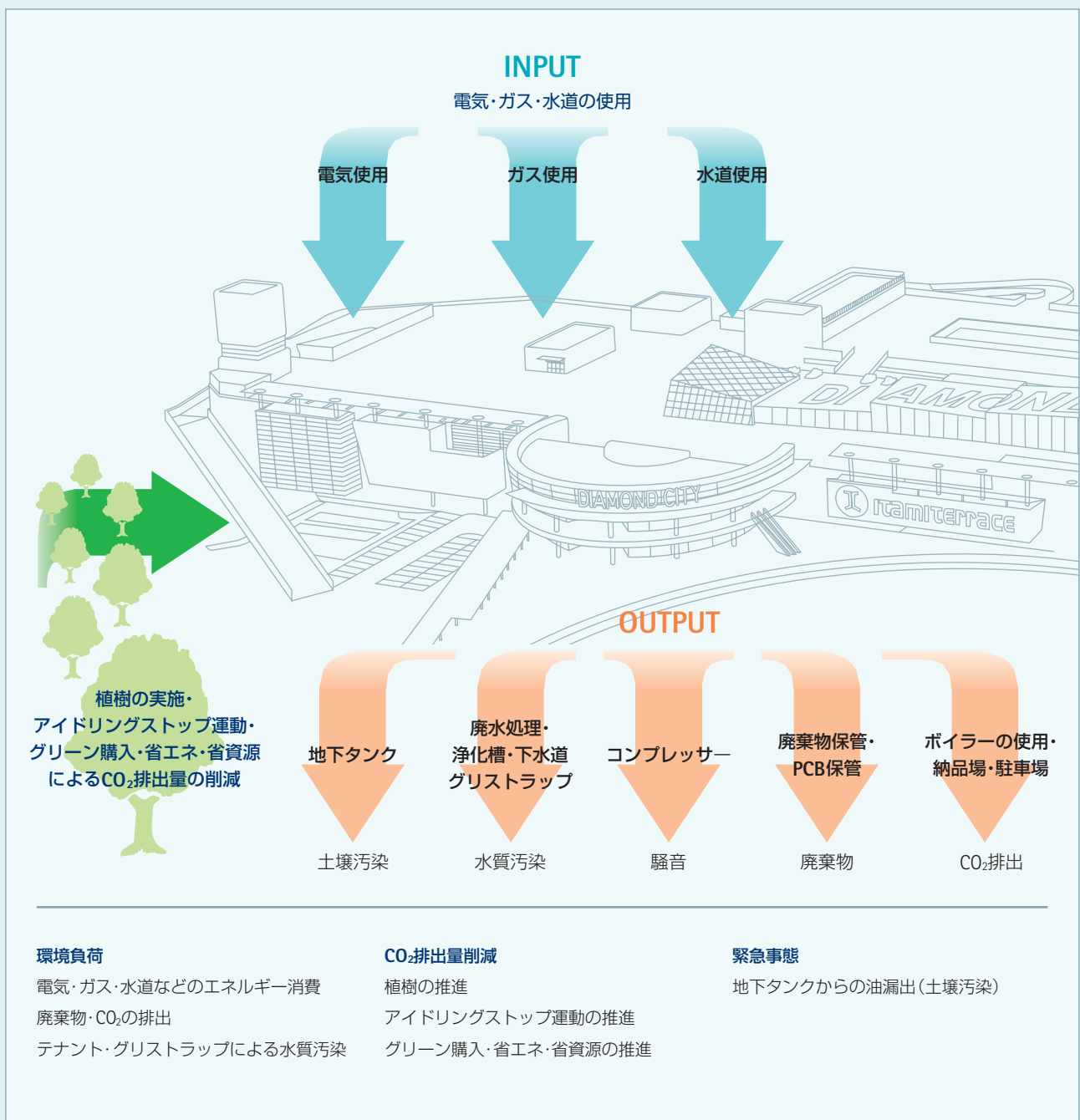
⑥ クリーン活動への取り組み

- (1) 周辺地域での定期的なクリーン活動の実施
(ディベロッパーとテナントとの共同実施)

→ クリーン活動の実施:全SCにおいて計画的に実施

事業活動と環境との関わり

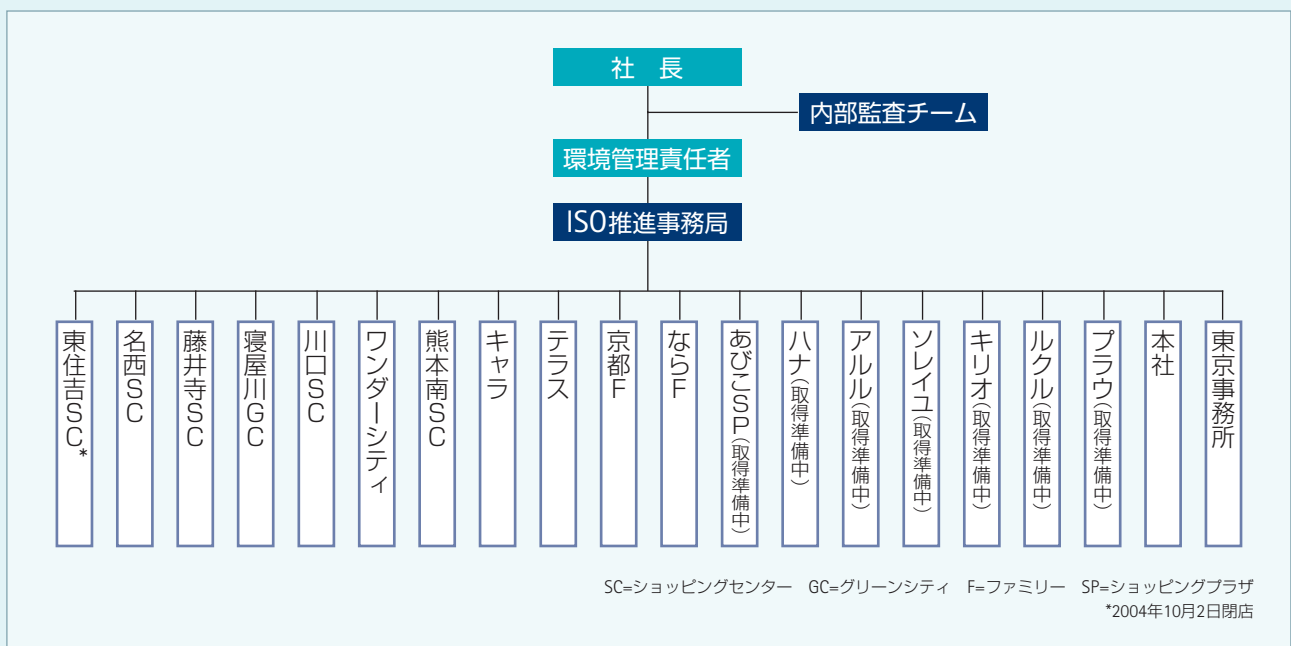
私たちダイヤモンドシティは、全国に展開しているSCにおいて、電気・ガス・水道などのエネルギー使用量の低減を重要課題として捉え、環境負荷の低減に努めています。関連法規の遵守、従業員およびテナントへの啓蒙や教育などを積極的に推進することで、継続的な改善を図っていきます。また、各自治体の条例の遵守はもちろん、各SCにおいて効果的で適切なメンテナンスによる環境負荷の低減と環境保全に努めています。



環境マネジメントシステム

私たちダイヤモンドシティは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を取得しています。Plan(計画)－Do(運用)－Check(監視測定)－Action(見直し)というPDCAサイクルに基づいた継続的改善を目的に、社内組織の整備、内部監査の実施、環境教育の実施など、全社一丸となって環境負荷の低減に取り組んでいます。

組織図

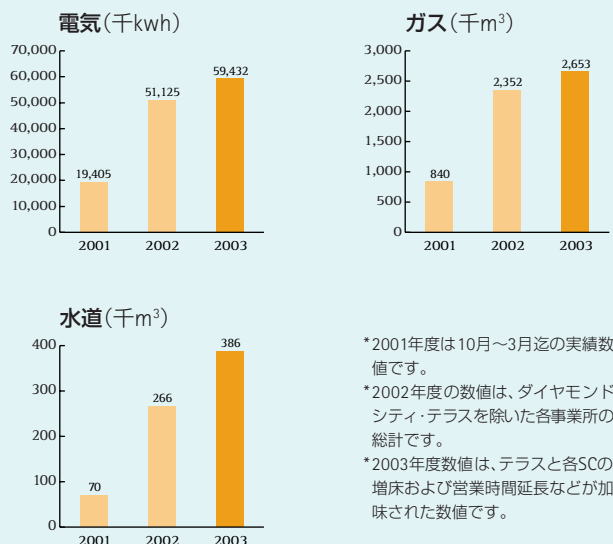


2004年度の年間スケジュール

2003年度の実績を評価の上、見直しを行っています。今年度は、部門別、階層別の環境教育の他、ポスター・ハンドブックの配布、現場での教育に重点的に取り組めます。

3月～5月	経営層による見直し 法規制見直し 環境方針、目的・目標公開
6月～11月	OPマネージャー他研修 ISO内部監査の開始 SCでの手順・基本教育 SCでの法規制教育 ISO内部監査および報告
12月	継続審査
1月	継続認証
2月	年間数値集計 各現場での見直し検討

エネルギー・資源の使用状況



環境への取り組みと環境教育

環境に関する取り組みを推進するためには、社員一人ひとりの意識を高めることがより重要です。ダイヤモンドシティでは、環境方針・目的・目標やISO14001に基づいた正しい認識と知識を深めるための継続的な環境教育や啓発活動を実施しています。例えば、一人ひとりが守るべき項目を設定した「社員携帯カード」を全社員に配布し、携帯することを義務づけることで、遵守状況のチェックを常に行える体制を構築しています。

2004年度の環境教育に関する受講人数と回数

	受講人数(名)	回数(回)
本社での管理者研修	37	2
新人教育研修(中途採用を含む)	51	7
現場での環境意識の向上について	延べ291	30
環境に関する資格取得の目的について	1	1

省エネ・省資源の推進

ダイヤモンドシティでは、環境負荷低減のため、SCの計画・設計段階より省エネ機器の導入についての比較検討、館内の環境設計などの省エネ・省資源の推進に積極的に取り組んでいます。

(省エネ・省資源への取り組みの実例)



電力会社の推奨する蓄熱受託制度を利用した大規模氷蓄熱システムをSCで採用しており、CO₂の削減に貢献しています。



地域社会のゴミ処理問題への対応の一環として、分別用ゴミ箱をすべてのSCに設置しています。



地下水の使用を可能とするために、濾過システム装置を稼働させています。
(井水濾過システム装置)



生ゴミ処理機を導入し、SCで排出される生ゴミを処理、コンポスト化して肥料として利用しています。
(テラスに設置)



SCで消費される電気を適正に規制・管理し、使用量の削減に役立っています。
(インバーター装置)



CO₂削減のため、SCにおける自家発電システムを廃止する方向で準備しています。
(川口GC)

グロサリー(用語集)

● CSR

Corporate Social Responsibilityの略で、日本語では一般的に「企業の社会的責任」と表される。近年、「マルチ・ステークホルダー・エコノミー」を背景に、企業と何らかの利害関係を有する主体(ステークホルダー)それぞれとの関係をこれまで以上に大切に、具体的かつ実効性のある配慮行動をとることの重要性が増している。

● GRIガイドライン

組織の活動内容について、持続可能な社会に向けてどのように貢献しているかを、経済・環境・社会的側面について報告する全世界で適用可能なガイドライン。

● SRI

Social Responsible Investment(社会的責任投資)の略。財務分析による投資基準に加え、社会・倫理・環境などにおいて社会的責任を果たしているかを基準に投資行動をとること。

● 企業市民

Corporate Citizenの訳語。社会を構成する様々な主体とバランスよく連携を図り、「社会の一員として社会に役立つ事業活動を行う」という姿勢を指して「企業市民」と呼ぶ。市民は一個人を指すものだが、企業も社会を構成する一市民と捉え、擬人化した表現である。

● プロパティ・マネジメント

投資家・不動産所有者などから委託された対象不動産の運営・管理業務を行い、その不動産からの収益と不動産価値の最大化を図るもの。

● ディベロッパー

土地を購入して建物を建てる計画をし、建築士に設計と工事監理を依頼し、建設会社に建物の施工を依頼し、購入者に販売するもの。高い物件価値を実現する企画力が問われる。

● ISO14001

国際標準化機構(ISO)が作成した環境に関する国際規格。組織活動、製品およびサービスの環境負荷の低減といった環境パフォーマンスの改善を実施する仕組みが継続的に運用されるシステム(環境マネジメントシステム)を構築するために要求される。

● 大規模氷蓄熱システム

割安な夜間の電力を利用して氷をつくり、熱を蓄積し昼間の冷房に利用するシステム。

昼夜電力の平準化と環境保全、並びにランニングコストの低減と運用管理のメリットが実現する。ダイヤモンドシティでは、流通業界最大級の氷蓄熱量の規模となり、その環境への貢献に対し、2年連続で(財)ヒートポンプ・蓄熱センターより感謝状の贈呈を受けています。

● ハートビル法

高齢者や身体障害者などが円滑に利用できる建築物の建築の促進を図ることを目的として、1994年に制定された「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律」(2002年7月12日法改正、2003年4月1日施行)の略称。多数の者が利用する建築物などを建築する者に対し、障害者などが円滑に建築物を利用できる措置を講ずることを義務あるいは努力義務として課すもの。

● ユニバーサルデザイン

年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすること。すなわち、すべての人にとって快適なデザインを指す。

● バリアフリー

人を隔てたり、行動を妨げたりする障壁(バリア)を除去した状態を表す言葉。建物内の段差の解消など、物理的障壁の除去という意味合いが強いが、より広く、「障害のある人の社会参加を困難にしている社会的・制度的・心理的な全ての障壁の除去」という意味でも用いられる。